

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070501467		
法人名	医療法人 社団桜会		
事業所名	グループホーム さくら	ユニット名	花かご
所在地	福岡県北九州市小倉南区朽網西1丁目6-6		
自己評価作成日	H23年8月25日		

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年10月4日	評価結果確定日	平成23年11月29日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が整形外科であり、医療連携体制が充実しており、外部協力病院との連携も図っている。老人保健施設、デイケア、ケアハウスなど高齢者ケアの多彩な施設が併設されており、専門職のマンパワーがバックにある。研修も随時行いスキルアップを目指している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広大な敷地内には、老人保健施設やケアハウス等が併設されており、高齢者複合施設の3、4階に、3ユニットの「グループホームさくら」は位置している。ゆとりある生活空間には、快適さや和みある空間作りへの配慮が各所に施され、眺望の良い場所に配置された各居室からは、周囲の町並みや曾根新田、周防灘までを眺めることが出来る。母体となる医療機関が近隣に位置していることに加え、複数の協力医療機関との連携も図っており、医療面でのケアの充実、入居者、家族にとつての大きな安心感につながっている。法人としてのスケールメリットも活かしながら、地域や行政との連携が更に充実していくことにより、地域における福祉拠点としての活動の展開が大いに期待される事業所である。

## . サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
<b>理念に基づく運営</b>				
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット毎の理念を作り、全員の目に付くところに掲げて話し合い理念に基づいて実践につなげている。	母体となる医療法人の理念のもとに、3ユニットそれぞれの理念を掲げている。ミーティング等において確認を行いながら、実践につなげるよう、日々取り組んでいる。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年山車の立ち寄りや近隣の幼稚園の方達に来ていただいたり、行事の際にも様々なボランティアの方達等に来ていただいている。また併設されている老健施設やケアハウスとの日常的な交流の機会もある。	近隣幼稚園から来訪を受けたり、中学校の体験学習の受け入れ、美容学校生徒によるボランティア(メイク・ネイル)等の交流の機会がある。広大な敷地内には、毎年、神幸祭の山車が巡行に訪れる。今後は、地域や行政に向けてより積極的なアピールを行うことにより、地域拠点としての活動の展開が期待される。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議でご家族地域の方々に日々の出来事を報告し意見交換、話し合い、ケアに対して理解して頂けるよう努めている。	
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、開催し、日々の変化や取り組んだ内容を報告して意見や感想を交換してサービスの向上に向け取り組んでいる。	運営推進会議は、家族、民生委員、包括支援センター職員等の参加により、2ヶ月に1回、定期開催されている。活動報告や事故報告を行い、参加者との意見交換を行っている。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政が開催する定期会議に管理者やケアマネージャーなどが参加し意見交換を行いより良いサービスが提供出来るように取り組んでいる。	地域包括支援センターが主催する、グループホーム交流会に参加し、意見交換や情報共有に努めている。また、困難事例等への対応について、行政担当者や包括支援センター職員への相談や連携を図っている。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修・勉強会に参加している。又、やむをえず要する場合には記録を行い、家族の同意のもと定期的な話し合いも行っている。	法人として、医師である理事長を中心とする身体拘束廃止委員会が設置されており、様々な専門職で構成されている。家族とも相談しながら、個別の状況に応じた環境整備も含めた支援や配慮を行うことにより、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ヒアリングから、日中の施錠は行われていないことを確認する。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修・勉強会に参加し、虐待に関する認識と理解を深め、利用者の少しの変化でも注意するよう努めている。	

福岡県 グループホーム さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について等の研修に参加したり、他ユニットでは実際に利用している方がいる。	現在、権利擁護に関する制度を活用している方もおり、外部研修への参加、及び内部での伝達を図りながら、職員の理解を深める取り組みを行っている。必要時には説明が出来るよう、資料等を整備している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解 納得をしていただき契約を行う。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置しており、意見や要望があった際には話し合いを行い改善等に取り組んでいる。	運営推進会議への家族の参加が多く、意見や要望を表出する機会としている。日常的なコミュニケーションを通じて、また、担当者会議開催時等を通じて、意見や要望の収集に努めている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングや各ユニットの会議を行っており、意見や提案を聞く機会を設け、取り組んでいる。	毎朝のミーティングや定期のユニット会議において、職員の意見や提案を収集し、全体のリーダー会議での検討を経て、運営に反映していくよう努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	週に1回の管理者会議に於いて、代表者と職員間の種々の改善に向けたコミュニケーションを図っている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢による採用対象からの排除などしていない。一人一人の意見や提案などを遠慮せずに出せるように配慮している。	職員の募集や採用にあたっては、年齢や性別による排除は行っていない。研修参加へのサポートを行い、個々のスキルアップを支援している。職員の特技や趣味は、入居者への個別支援や室内の装飾等に活かされている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者の方達への言葉遣いや支援方法について話し合いをこまめに行い取り組んでいる。	法人全体や事業所としての研修の中で、また、行政の主催する研修に参加し、様々な視点からの人権教育を行い、啓発に努めている。	

福岡県 グループホーム さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に法人内で様々なテーマで勉強会を行っている。又、法人外の研修のお知らせを皆に参加呼びかけを行ったり、貼り出している。同業他社と積極的に意見や情報交換などで触発され若い職員の意欲を運営に活かしていけるよう取り組んでいる。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センターの方より交流会の案内等を知らせていただき、積極的に参加している。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前や入居後もサービスの見直し毎に本人の要望や困っていることなどを本人や家族より聞くように努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居後のサービスの見直しの際や面会時などに聞き取りを行っている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて医師や看護師・PT・OTと連携し必要に応じたサービスを利用出来るように対応している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に手作業や家事などを行ったり、分からない部分を教えてもらったりしている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際など最近の様子を伝えたり、気になることなどを尋ねたり、より良くサービス提供できるように相談をしたりしている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の面会やお盆や年末年始などの外出・外泊をすすめたりなど支援している。	テーブルセットやソファーが置かれている居室も多く、家族や友人、知人等の来訪を歓迎している。また、旧知の方に会うために出掛ける等の支援を行った経緯もある。	

福岡県 グループホーム さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	手作業やリクリエーション・行事などを通じて 交流を深めてもらえるように支援している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談に乗ったり、退居後ショ ートステイを利用している方もいる。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	入居の際、プランの見直しの際など随時希 望・要望を話し合い検討し、支援している。	家族の協力も得ながら、生活習慣やライフス タイルに関する情報収集を行っている。個別のケ アノートやカンファレンス等において、職員間で の情報共有を図っている。日々の記録は、身体 状況や健康管理に関する記載は丁寧に行われ ているが、心情の変化等、思いや意向の把握 につながる記載は少ない。	入居者の主観的情報や職員の気づき を共有するためにも、記録様式やアセ スメント様式の工夫や充実を図り、認 知症ケアや個別支援へのアプロ ーチ、また、職員個々の新たな観察視 点の確保へとつなげていくことを期待 します。
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	入居の際に聞き取りを行い、又、入居後 についても家族の方の面会時や本人から随時 聞き取りを行っている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	担当者会議や各ユニットでの会議を行い、 最近の様子や変化のあったことなどを話し 合い把握に努めている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	計画作成時には本人・家族等の方達と話し 合い、意見や要望にもとづいて作成してい る。	本人、家族の参加する担当者会議を開催し、意 向や要望を大切に捉えている。日々のケアプラ ン実施表や、毎月のモニタリング・カンファレン スを通じて、現状の確認や検討を行い、見直し につなげている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に変化など記録し、又連絡ノート等にも 記入して職員間で情報の共有を行い実践・ 見直しを行っている。		

福岡県 グループホーム さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族と話し合い要望や意見についてはすぐに話し合いを職員間で行い、様々な支援・サービスに取り組んでいる。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事などがあつた際、地域の方々にボランティアをして頂き協力してもらっている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医があれば受診して頂き、受診する際には最近の様子などの情報提供を行なった連携に努めている。	家族の協力による、これまでのかかりつけ医への受診や、週2回の協力医の往診体制を確立し、適切な医療活用となるよう支援している。複合施設の1階には、歯科設備も整備されている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化や気づいた事など必要に応じてすぐにさくら整形へ報告・相談を行なっている。又、週に2回の往診にも医師・看護師の方に来て頂き医療連携体制に基づいた支援を行なっている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	総合病院や労災病院等協力医療機関であり、いつでも必要に応じた対応が出来るよう関係作りを行っている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員・医師・看護職・家族と話し合いを行い充分に出来る事・出来ない事の説明を行って支援に取り組んでいる。	入居時に、重度化した場合や終末期に向けた指針を示し、同意を得ている。これまでに、家族の希望に寄り添い、看取りを行った経緯もあり、変化に応じて、家族や医師との話し合いを重ねながら、方針を共有している。研修計画の中には、終末期医療、ターミナルケアが組み込まれている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・緊急時の対応方法を目の届く所に貼っている。又、医師から急変時の対応などの勉強会を行ってもらったりしている。		

福岡県 グループホーム さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を行い、夜間想定や日中の想定など毎回違う出火場所を設定している。	近隣に消防署が位置しており、入居者の方の参加や、母体医療法人からの応援も得ながら、複合施設全体での合同訓練を行っている。スプリンクラーの設置、及びキッチンには防火シャッターも整備され、施設全体で備蓄品が用意されている。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけを慣れ合いにならないように出来るだけ敬語を使い、プライバシーについても勉強会やマニュアル・会議の際などに話し合ったりしている。	言葉かけや対応が、親しみすぎて礼を欠くこととならないように、意識を持った支援に努めている。排泄ケアの際には特に留意し、トイレ誘導や失禁時の対応については、プライドや羞恥心に配慮しながら、さりげない対応に努めている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度一人一人の説明や希望を聞き支援を行うようにしている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活のペースを把握し、無理強いの無いようにその方の希望に合わせて支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、身だしなみの支援を、一人一人に行い、又、定期的に行事などでメイクアップ教室やエステマッサージなどを行ったりしている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みを最初に聞き取り、必要に応じて栄養士の方と相談している。昼食時に一緒に盛り付けなどを行ったり、その方の状態に合わせて、一緒に片付けを行ったりしている。	法人厨房との連携も図りながら、嗜好や栄養バランス等に配慮された食事の提供に努めている。年2回、バイキング料理を楽しむ機会がある。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事の量の記録、水分量の記録をしており、必要に応じて本人や医師・看護師・栄養士へ相談を行い支援している。		

福岡県 グループホーム さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後その人に合った口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。(歯ブラシ・うがいなど)		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表を記録し、一人一人の排泄パターンの把握に努めている。又、会議などでオムツの使用などについても話し合い自立に向けて支援している。	排泄チェック表により、パターンや間隔の把握に努めており、毎月のカンファレンスにおいて個別の検討が行われている。入居時のおむつ使用から、現在は布パンツへ移行された例もあり、日々の声かけや対応により、トイレ誘導や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな方への運動への声掛けや食事摂取への声掛けなどを行っている。又、何日か排便みられない際には薬の内服などの対応を行っている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声掛けにて一人一人の希望する日や時間に極力行っている。又、入浴拒否がみられる方へは時間を置いて声掛けするなど支援をしている。	基本的な入浴日の設定はあるが、毎日入浴準備を行い、その日の希望や状況に応じて、柔軟な対応を行っている。個浴対応のユニットバスと、広さにゆとりのある浴室が設置されている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前日にあまり寝れていない人やホールなどウトウトされている方などその時の状況に合わせ、少しベットに横になってもらうなどの支援を行っている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の内服薬や使用している薬剤の名称・処方箋等を個人ファイルに入れており、変化があった際にはすぐに書き直すなど努めている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手作業などその方の好まれる事や楽しんでいる事などをして頂いたり、その方の興味のある事などを取り入れるように支援している。		

福岡県 グループホーム さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>花見や買い物など季節に合わせて様々な所へ外出出来るように計画し、支援を行っている。</p>	<p>複合施設として広大な敷地を有し、芝生が敷かれた広場等、外気浴を行いやすい環境の中にある。季節の外出行事が企画され、また雨天時等でも複合施設内を散歩することができる。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物を職員・入居者で行き、職員がサポートしながら一人一人の好きな物や食べ物が買えるように定期的に計画し支援している。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人の希望に合わせて家族への電話などの支援を行っている。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>その時々のお花を飾ったり、手作業等で作った作品やカレンダーを飾り工夫している。</p>	<p>床暖房の設置や、畳スペースには掘り炬燵が設けられる等、快適な空間づくりへの配慮が行われている。入居者の趣味活動の成果やレクリエーションで作られた作品等がさりげなく飾られている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>バルコニーや掘りコタツなど思い思いに過ごせるようなスペースを作っている。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の慣れ親しんだ家具等を持って来て頂いたり、本人・家族の希望を聞き過ぎやすくなるような空間となるように配慮している。</p>	<p>眺望の良い各居室からは、周囲の田園風景や周防灘までを見渡すことが出来る。洗面台やクローゼットが設置され、机や椅子、ソファ等が持ち込まれた、個性ある居室が多い。状況や生活習慣に応じて、マットレスのみを使用する等、個別に応じた配慮が行われている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人一人の出来ることを把握し、出来ない部分のサポートをするように支援している。</p>		